



本田 公忠さん
Honda Kimitada

〔津志田区〕

ほんだ きみただ / 6月開設の白旗仮設住宅で、愛猫・チコと2人暮らし。畑仕事や老人会での草刈り作業や花植えなどに精力的に活動。

愛猫と支え合う 仮設団地での新たな暮らし

「畑での野菜づくりと愛猫・チコとの生活が今の生きがい。健康で元気に、もっともっと長生きすることが目標です」と話すのは、白旗仮設団地に入居している本田公忠さん（津志田区）。

今年6月に90歳を迎えた本田さんは、4月に発生した熊本地震によって長年過ごした自宅が全壊。その後親せきの家に身を寄せていたが、6月5日（日）から仮設住宅に入居した。3年前に奥さんを交

通事故で亡くしてからは、愛猫・チコと2人暮らし。「チコは私の第2の伴侶のような存在。お互いに支え合いながら生きています」と本田さん。仮設住宅に入居が決まった時は、「チコと一緒に住める場所が決まって安心しました」と当時の思いを語る。

仮設住宅での暮らしも約3か月が経ち、「畑に行くときは必ず近所の人に声を掛けて

いますし、チコに会いに遊びに来てくれる子どもがいるのでうれしいです」とほほえむ本田さん。「震災で失ったものは多かつたけれど、仮設住宅に入ってからとは人との出会いもたくさんありました。新聞やテレビなどで私とチコのことを知った方から『震災に負けずがんばってください』という励ましのはがきが届いたこともあり、とても感動しました」と、仮設住宅での新たな出会いに目を細める。

定年後からモモづくりを22年続け、今でも朝6時から畑仕事に励むことが日課だという本田さんは、「汗を流して働くこと、生きているということを実感します。自分の育てた野菜を収穫したときのうれしさはひとしおです」と震災を乗り越えて元気いっぱい。

「これから自宅の解体が始まるし倒れたお墓の修理もあるし、まだまだやらなければいけないことがたくさんあります」と本田さん。「この場所、チコと一緒に力強く生きて行きます」と新たに始まった暮らしの未来へ進む。